

## 「第60回 正倉院展」に多くの観光客が

今年も10月25日(土)から、恒例の「正倉院展」が奈良国立博物館で始まり、奈良は、国内外から多くの観光客でにぎわっています。

昭和21年から始まった正倉院展は、今年で60回の節目を迎えた今回は、遠くペルシャからシルクロードを経て伝わったとされるカットグラス「白瑠璃椀(はくるりのわん)」や、宝石や貝で飾られた中国製の鏡「平螺鈿背八角鏡(へいらでんはいのはっかくきょう)」を初め69件(うち初出陳19件)の正倉院宝物が展示されています。

11月10日(月)までの期間、博物館へのアクセス道路はもちろんのこと、近鉄奈良駅・JR奈良駅の周辺や三条通りなどの中心市街地は、大都市の繁華街のように多くの人が訪れ活気に溢れています。

この正倉院展に訪れる多くの観光客に、奈良の魅力を知ってもらおうと、中心市街地内の東向、小西通、三条通りショッピングモール、もちいどのセンター街、三条通り橋本、下御門、花芝通り、東向北商店街の8つの商店街や平成21年5月に創立100周年を迎える奈良女子大学、まちづくり団体などが実行委員会を作り関連イベントとして「はじまりは正倉院展スタンプラリー」を企画し、正倉院展終了後11月16日まで期間を延長し実施しています。

このスタンプラリーは、①テレビドラマ「鹿男あをによし」のロケ地めぐり、②江戸時代の発行された木版刷りの古



観光客でにぎわう東向商店街

絵図でまわる「きたまち」めぐり、③「連合艦隊」や「男はつらいよ」などの映画ロケ地めぐり、④石碑や道標をまわる碑文・道標・魔除けめぐりの4コースが設定されており、②と④のコースでは、ボランティアガイドによるガイドツアーも実施されます。それぞれ約2時間で回ることができ、お買い物・飲食・宿泊・施設などの入場の際にスタンプを集めると『ポストカード』をもらえなくプレゼント。さらに抽選で「奈良宿泊券」などの素敵な景品が当たります。この機会に是非奈良の町をゆっくりお楽しみ下さい。

また、その他、ならまちを歩いて、奈良にまつわる一品や正倉院に関連した限定商品、奈良らしい期間限定メニューなどのあるホテルや旅館、お店などを訪ねる「まちかど正倉院展」や夜に「ならまち」で文化が体験できる「ならまちナイトカルチャー」、農産物の直売などで奈良の豊かな食を味わい、同時に開催される多様なイベントで奈良文化を楽しむ「奈良にぎわい味わい回廊」など、奈良の魅力いっぱいの関連イベントも用意して奈良にお越しの皆様をお待ちしています。



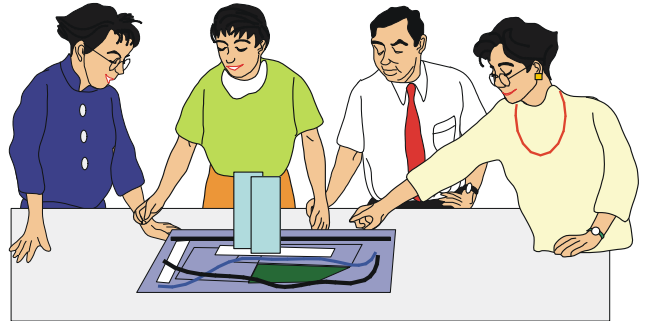
「はじまりは正倉院展 スタンプラリー」パンフレット

# 第1回まちづくりワークショップ、開催される

10月17日午後6時30分から、奈良商工会議所地下A・B会議室において、今年度からの活性化協議会の自主事業である「第1回まちづくりワークショップ」が行われました。

このワークショップは、あらかじめ活性化協議会の募集に応募された市民・団体代表・事業者等18名が出席し、「奈良らしい賑わいと活気に満ちたまちづくりを考える」というテーマで、「まちのにぎわい部会（ファシリテーター 出口巳幸氏）」と「観光のまちづくり部会（ファシリテーター 梅屋則夫氏）」の2班にわかれ、商業施設や買い物に関する事、駅や車等の交通に関する事などを4回連続で話し合う予定となっています。

今回が第1回目と言うことで、オリエンテーションに続き、参加者が情報を共有するため、梅屋中心市街地活性化アドバイザーから「奈良市中心市街地の現況と課題について」および、奈良市商工労政課今中課長補佐から「奈良市中心市街地活性化基本計画」の説明を受けたのち休憩をはさみ、班別ミーティングが行なわれ、参加者の自己紹介、書記を決定した



後、参加者1人ずつから「奈良のまちづくり」への期待や、日頃から考えている中心市街地や観光・商業への思いなどを発表していただきました。

そして、次回以降の日程や進め方についての確認を行い第1回ワークショップを終了しました。

なお、本格的な作業に入る2回以降の開催日程は、11月21日、1月16日、2月20日（いずれも金曜日、18時30分から）と決まりました。

協議会は、このワークショップで纏められた成果を公表することで、市・事業者を初めとする多くの関係者の活性化施策の参考となればと期待しています。



まちのにぎわい部会



観光のまちづくり部会

## 奈良県観光客動態調査報告書より

当協議会発行の、「なら賑わい通信第6号から第8号」にわたり、国土交通省によって始めて実施された宿泊旅行統計調査（平成19年1月～12月）を基にした奈良県の分析結果をご報告いたしました。これは国内にある従業員数10人以上のすべての宿泊施設を対象に四半期ごとに宿泊数を調査したもので、この統計調査では、奈良県の1年間の延べ宿泊数は1,152千人という統計数値でありました。

先般、奈良県より奈良県観光客動態調査（平成19年1月～12月）結果が公表され、これは1年間の観光客数をJR・近鉄の主要駅乗降客数、国立・国定公園及び県立自然公園等利用人数、各社寺の拝観者数、各観光施設の来訪者等の資料を総合し推計されたものです。ここでの奈良県の宿泊数は、3,419千人と公表されております。

以上のことから、国土交通省における統計上の宿泊数と奈良県が公表した宿泊数には、約2,267千人の差が出てきております。

これについては、国土交通省においては従業員10人以上の宿泊施設を対象にしており、また県では従業員10人未満も含めた県下全ての宿泊施設の全ての宿泊者を対象としており、統計の調査対象が異なるためですが、当協議会としては、それぞれの統計データを比較検討して広く活用して頂きたい、今回奈良県より公表されました「奈良県観光客動態調査報告」を掲載させて頂きました。

これによると、奈良県の平成19年の推計観光客数は、前年に比べて0.86%、300千人増の35,302千人であった。月ごとの入込数を平成18年と比較すると、1月から6月にかけて0.3%、7月から12月までの間においても1.6%それぞれ増加している。

地域別では、奈良、信貴、明日香、斑鳩、橿原、十津川の6地域で増加、矢田、生駒、室生・長谷、東吉野、吉野川、大峯山、高野・龍神など14地域で減少となっている。

### ① 宿泊施設の概要

平成20年3月31日現在の旅館等施設状況は、ホテル51、旅館438、簡易宿所236、合計725の施設が県内にあり、収容人員は、合計で34,745人である。その内、奈良市内の収容人員は、11,833人で、県全体の収容人員の34.1%を占めている。

### ② 宿泊人数の推計

平成19年の奈良県での宿泊客は、3,419千人、宿泊率は9.7%で、前年に比べ17千人（0.50%）の増加となっている。その内訳は、一般観光客が26千人（0.84%）の増加で3,118千人、修学旅行者が9千人（2.90%）の減少で301千人となっている。

図表1. 観光客宿泊状況

(単位:千人)

種別	年		増減	前年比(%)
	平成18年	平成19年		
一般観光客	3,092	3,118	(26)	(100.8%)
修学旅行者	310	301	(△9)	(97.1%)
合計	3,402	3,419	(17)	(100.5%)

※図表1から図表3までは、平成18年および19年の1月～12月の調査結果をもとにしており、図表4は平成19年4月～平成20年3月の調査結果をもとにしています。

図表2. 奈良県地域別観光客数

地域名	年	
	平成18年	平成19年
奈良	13,468,900	13,883,600
矢田	565,000	521,000
山の辺	4,832,000	4,814,000
生駒	1,908,000	1,823,000
信貴	1,153,000	1,211,000
曾爾	886,000	858,000
二上・當麻	708,000	687,000
明日香	762,000	763,000
斑鳩	759,000	904,000
橿原	3,972,000	4,127,000
室生・長谷	1,528,000	1,426,000
金剛・葛城	784,000	755,000
吉野山	1,151,000	1,134,000
東吉野	214,000	205,000
吉野川	134,000	127,000
大台ヶ原	211,000	203,000
大峰山北部	773,000	690,000
大峰山南部	198,000	184,000
高野・龍神	703,000	666,000
十津川	292,000	320,000
計	35,001,900	35,301,600

### ③ 外国人観光客の状況

(独)国際観光振興機構の平成18年度のアンケート調査では奈良県への外国人の訪問率は、6.1%、東京、大阪、京都、神奈川、千葉、愛知、福岡、兵庫、山梨、北海道に次いで全国で11番目となっている。

### ④ 観光消費による直接消費額

平成18年4月～平成19年3月に観光客への聞き取り調査を行った結果、1人あたりの観光消費額は、日帰り客が3,690.5円、宿泊客が30,114.5円であった。

このことから、平成19年の観光による直接消費額は2,206億円であったと推計している。

### ⑤ 来訪者の発地

来訪者の発地を日帰り、宿泊別にみると、日帰りの場合、最も多いのが奈良県の32.7%、次いで大阪府の30.1%、三重県の6.2%となっている。一方、宿泊の場合、最も多いのが東京都の13.1%、次いで大阪府の11.2%、神奈川県11.0%となっている。

図表3. 交通機関利用者数からの入込者数推計

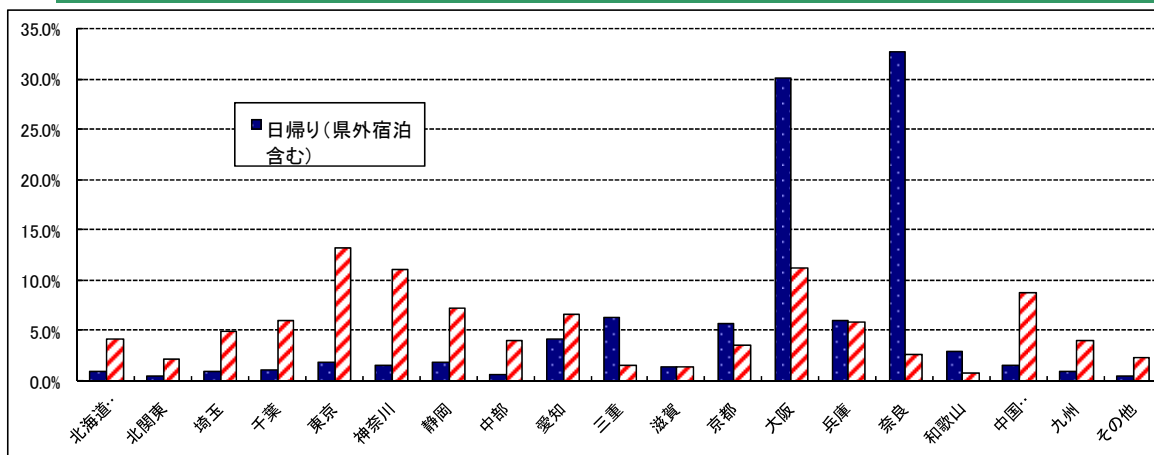
#### (1) JR主要駅

駅名	平成18年(人)	平成19年(人)	前年比
奈良	2,512,295	2,468,495	98.3%
郡山	646,050	630,720	97.6%
法隆寺	830,740	839,865	101.1%
王寺	2,509,010	2,504,265	99.8%
三郷	317,915	302,950	95.3%
三輪	140,525	139,795	99.5%
高田	302,585	287,985	95.2%
計	7,259,120	7,174,075	98.8%

#### (2) 近鉄主要駅

駅名	平成18年(人)	平成19年(人)	前年比
近鉄奈良	4,571,710	4,510,063	98.7%
大和西大寺	3,677,671	3,608,822	98.1%
西ノ京	454,328	484,065	106.5%
信貴山下	160,941	156,440	97.2%
近鉄郡山	1,073,292	1,091,421	101.7%
ファミリー公園前	30,800	30,183	98.0%
大和八木	2,435,007	2,414,456	99.2%
橿原神宮前	1,282,121	1,216,579	94.9%
飛鳥	118,538	120,452	101.6%
岡寺	71,115	71,725	100.9%
壺阪山	78,097	83,371	106.8%
桜井	913,996	915,331	100.1%
長谷寺	103,511	101,011	97.6%
室生口大野	80,853	73,169	90.5%
近鉄御所	202,421	203,464	100.5%
当麻寺	87,077	90,292	103.7%
二上神社口	47,796	46,924	98.2%
吉野	88,688	97,604	110.1%
下市口	162,885	159,879	98.2%
大和上市	50,459	51,060	101.2%
計	15,691,306	15,526,311	98.9%

図表4. 観光客への聞き取り調査結果に基づく来訪者の発地(平成19年4月～平成20年3月調査)



単位 上段:千人

	北海道・東北	北関東	埼玉	千葉	東京	神奈川	静岡	中部	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	中国・四国	九州	その他
日帰り	266	133	253	306	572	453	546	173	1,318	1,970	426	1,810	9,585	1,890	10,423	905	466	266	120
	0.8%	0.4%	0.8%	1.0%	1.8%	1.4%	1.7%	0.5%	4.1%	6.2%	1.3%	5.7%	30.1%	5.9%	32.7%	2.8%	1.5%	0.8%	0.4%
宿泊	138	72	165	204	448	375	244	132	224	53	46	119	382	198	86	26	296	132	79
	4.0%	2.1%	4.8%	6.0%	13.1%	11.0%	7.1%	3.9%	6.6%	1.5%	1.3%	3.5%	11.2%	5.8%	2.5%	0.8%	8.7%	3.9%	2.3%
合計	404	205	418	510	1,020	828	790	305	1,542	2,023	472	1,929	9,967	2,088	10,509	931	762	398	199
	1.1%	0.6%	1.2%	1.4%	2.9%	2.3%	2.2%	0.9%	4.4%	5.7%	1.3%	5.5%	28.2%	5.9%	29.8%	2.6%	2.2%	1.1%	0.6%

以上、「奈良県観光客動態調査報告書」より  
 なお、詳しいデータは、奈良県ホームページ  
<http://www.pref.nara.jp/kanko/toukei/> を  
 ご参照願います。